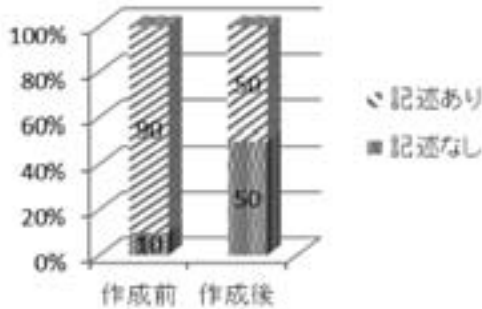
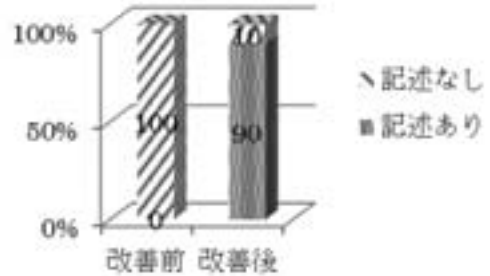


③内視鏡センターの看護の特徴 図3



チェックリスト作成前10%が、作成後50%の記述がみられた。

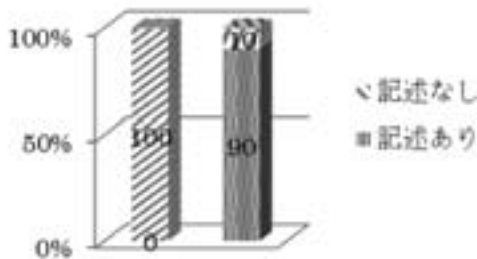
④安全対策の実際 図4



チェックリスト作成前0%が作成後90%の記述がみられた。

スタッフへは、チェックリストを使用して行った学生指導についての意見を聞き取り調査にておこなった。  
 ・指導内容が具体的になったので指導しやすくなった  
 ・指導漏れがなくなった  
 ・指導内容が具体的になったので自分も勉強になったとの意見が聞かれた。

⑤感染対策の実際 図5



チェックリスト作成前0%が作成後90%の記述がみられた。

#### 4. 内視鏡定期培養検査プロトコルを使用した洗浄消毒の評価

医療法人原三信病院 内科外来 内視鏡センター

○仲本 千明 有間 雅子 土屋 一 大田 敏枝

消化器内科医師 原口 和大

##### 【はじめに】

現在、内視鏡センターでは消化器内視鏡のマルチソサエティガイドラインに沿った内視鏡の洗浄消毒を実施しており、これまでその洗浄消毒の評価のために独自で作成した手順で培養検査を行っていた。しかし、その培養方法では内視鏡の1ヶ所からの培養検査のみで、細部にわたる培養検査が行えていなかった。そこで、2015年に当院で使用している内視鏡の構造にあった定期培養検査プロトコル(以下プロトコル)が発表されたため、今回定期培養検査の方法を変更して洗浄消毒の評価を行ったのでここに報告する。

## 【目的】

内視鏡の構造に合ったプロトコールで細菌培養検査を行い、洗浄消毒の評価を行う事を目的とする。

## 【対象】

当院にある消化器内視鏡32本

## 【方法】

- ①調査期間：平成29年10月から平成30年1月
  - ②月に1回、プロトコールに準じて全ての内視鏡の中から無作為に抽出した内視鏡1本から培養検査を実施する。
- ※検査の合格基準は一般細菌： $\leq 20$ コロニー形成単位（以下CFU）／検査サイト、抗酸菌：0CFUとする。

## 【結果】

10月の結果で、外表面、吸引チャンネルから一般細菌が1CFU/ml以下の結果が報告され、その内容についてはバチルス菌属や、グラム陽性球菌が検出された。

抗酸菌に関しては研究開始から終了後も0CFUで経過している。

## 【考察】

1本の内視鏡から複数箇所の検体を採取することで、これまでより精密な洗浄消毒の評価を行うことができ、また結果も合格基準をクリア出来ていた。1CFU/ml以下という結果については、グラム陽性球菌や、バチルス菌属が検出され、これは保管方法や移送時の再汚染、サンプリング時の感染が考えられる。このようなヒトや環境に常在する菌であっても、易感染状態にある患者などにとっては感染起因菌ともなりうるため、今後も保管方法やカメラの移送時には取扱いを十分に注意していく必要があると考える。抗酸菌に関しては結果が出るまでに長期間を要し、その間も内視鏡検査は行われているため万が一抗酸菌が検出された場合の対応も今後考慮すべきである。今回の研究では、データを集めるため毎月培養検査を行っていたが、プロトコールでは年に一回以上の施行とされているため、今後その頻度や一回で行う本数については、内視鏡医師や感染管理認定看護師、検査科に相談しながら検討していく。

## 【まとめ】

- ①プロトコールに準じた内視鏡の洗浄消毒の評価を行った結果、合格基準をクリアできて

いた。

- ②抗酸菌の検査については、結果が出るまでに時間がかかるため、今後検討していく。
- ③検査の頻度や1回で行う本数については、内視鏡医師や感染管理認定看護師、検査科に相談しながら検討していく。

【連絡先：〒812-0033 福岡県福岡市博多区大博町1-8 TEL：092-291-3434】

## 5. 当院におけるスマートフォンを利用した電子スコープ対物レンズの点検・管理の試み

一般社団法人菊池郡市医師会 菊池郡市医師会立病院

臨床工学科<sup>1)</sup> 代謝内科<sup>2)</sup> 総合内科<sup>3)</sup> 糖尿病センター<sup>4)</sup>

○岡崎 孝<sup>1)</sup>・中嶋 駿<sup>1)</sup>・川田 明菜<sup>1)</sup>・中水流夏奈子<sup>1)</sup>

古賀荒太郎<sup>2)</sup>・石田 隼一<sup>3)</sup>・豊永 哲至<sup>4)</sup>

### 【はじめに】

2017年3月よりオリンパス<sup>®</sup>社製内視鏡システムをVPPプログラム（症例単価払い）として導入した。半年に一度のメーカーによる点検があり、その都度報告書も作成され、医療機器の点検計画、点検実施が管理され、精度の高い機器管理が保証されることになった。しかしながら、臨床工学技士が常駐している当院では、日常的に工学技士としてのより良い日常的な機器の点検・管理の方法が無いか検討した結果、スマートフォン（以下スマホ）を利用し、光学機器の命とも言える電子スコープ対物レンズの点検・管理を試みる事にした。また同時に、キッコーマンバイオケミファ<sup>®</sup>社製ルミテスター PD30（以下ルミテスター）を使用し、先端部と操作部の保管時の清浄度を測定した。

### 【方法】

保管庫から電子スコープを取り出し、防水シート上に置き、ルミテスターにて清浄度を確認した。100円均一店にてLEDライト、スマホ用広角レンズ、三脚を購入し、個人用のHuawei<sup>®</sup>社製Nova lightスマホに広角レンズと三脚を取り付け、LEDライトを使用しながら対物レンズを撮影した。その後、画像をフリーメールアドレスへ送信し、Excel<sup>®</sup>にて報告書を作成した。

### 【結果】

工場での点検時に指摘された傷等も確認出来るレベルの画像を撮る事が出来た。また清浄度は先端部平均38.6RLU、操作部平均11.4RLUが測定された。